

インタビュー項目



名前	浅倉 和男
役職	小動自治会「なごみ会（老人会）会長」
年齢	77歳
活動内容	<p>小動自治会内の組織として、「高齢者の孤独・孤立を防ぐとともに元気で楽しく生活できるよう居場所づくり」を目的に活動しています。会員数は50名ほどで、小動地域集会所を活動の拠点としています。</p> <p>具体的な活動内容は「サロン活動」（定例会）と、「サークル活動」（麻雀、折り紙等の趣味、カラオケ、グランドゴルフ）です。会員が外出する目的をつくり、健康増進を兼ねた居場所づくりを進めています。サロン活動は全会員を招待し、約7割（33～34名）の会員に参加していただいています！</p> <p>その他にも誕生日を迎えた会員のお祝い、老人会では珍しい、物故祭（地域活動に貢献されていた故人を偲ぶ行事）を実施しています。</p>
きっかけ	<p>定年後、地域との関わりがありませんでした。つながりや共生がないと、将来、孤独・孤立に陥ると感じ、なごみ会に参加しました。以降、約15年なごみ会で活動をしています。</p> <p>今から5年前に副会長として当時の会長をサポートし、後になごみ会会長になりました。</p>
印象に残っていること	<p>令和6年4月25日のシニアフェスティバルに「合唱団」を19名で結成し、参加しました。本番に向けて、幾度と集まり練習を重ねました。これはなごみ会の活動主旨である「高齢者の居場所づくり」につながったと思います。</p> <p>当日は達成感もあり、観客の皆様から大歓声をいただきました。</p>
“地域のつながり”とは	<p>昔は近隣の高齢者が何軒も先に住んでいましたが、現在は高齢者で溢れ返り、隣に声をかければ高齢者がいる状況です。しかしそれがかえって老人会の必要性を希薄にしており、老人会の会員獲得の課題になっています。</p> <p>隣に住んでいても交流は盛んでなく、退職後のシニア世代は地域以外とのコミュニティが形成されにくいため、老人会は変わらず必要な組織です。世代によって認識の違いはありますが、各世代のつながりは重要です。</p>

自治会に望むもの

「自治会」という大きな傘の下に子ども会・現役世代・高齢者の各世代それぞれが活動し、自治会を支えています。コロナ禍で「自治会」が活動できない時は、各団体で方法を変え活動していました。

「自治会」は子どもから高齢者まで、幅広い世代に必要とされています。自治会全体で活動することは難しくとも、個別の世代間の交流を活発にしていきたいです。

なごみ会は自治会からの支援を厚く受けており、自治会がなければなごみ会は活動できません。高齢者の居場所づくりを進めることが出来ません。「自治会」へこれ以上望むことはございません。今まで通りご支援をしていただければと思います。